

平成16年度実績評価 事務事業進行管理表

事務事業名	青少年健全育成共催負担金事業			財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目
部等名	教育委員会	課等名	生涯学習課	内線	3570					
政策体系上の位置付け	政策	元気な子供が育つ地育力のあるまちづくり			関連計画、条例等					
	施策	地育力を高める生涯学習の推進								
	基本事業									
事業区分	経常的事業	新規、継続区分	継続							
事業期間	年度	～	年度	環境調整会議の必要性						

【D0】(1)この事務事業は、次の目的を達成することを旨とします。

目的の記述	対象 (人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値 (実績・現状)		
	市内保育園、小学生、中学生とその親	市内保育園児数 3075 小学校生徒数 6389人 中学校生徒数9610人	当初(15)	17年度	
			16年度	19074	
			当初(15)	17年度	
		16年度			
目的の記述	意図 (成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値 (実績・目標)		
	地域に暮らす大人が汗を流し何かに取り組み姿を子ども達に見せ、また子ども達も大人と一緒に切磋琢磨しながら土をいじり、農具を使いものを育てる。	参加者数	当初実績(15)	最終目標	
			16目標	543	16実績 543
			17目標	600	
			当初実績(15)	最終目標	
			16目標	16実績	
			17目標		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容 (やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	植物を育てることの難しさや大切さ、自然の恩恵や尊さを感じてもらい心を育てる一要素として感受性豊かな子どもに成長できるきっかけづくりとして、「ひまわり」を親子で育てる。また、それにより地域や物を愛する気持ちを醸成することを目的として、飯田青年会議所「地域の宝育成委員会」が実施する事業を支援する。	第1回、5月説明会、準備、畑作り、看板、ステージ作成 163名 第2回 5月畑作り、看板、ステージ作成、種まき、81名 第3回 6月畑作り、種まき、人形劇観劇、106名 第4回 8月写生、畑の中での人形劇観劇、ひまわり日記の発表、絵の展示95名 第5回9月 ひまわり畑の撤去作業、種活用、反省会67名 ボランティア飯田女子高校14人、下伊那農業高校17人	参加者(人) ボランティア(人)	512 31
	16年度の実績			
	17年度計画	「ひまわり大作戦」ふれあおう自然の中で、育てよう地域の宝をテーマに昨年と同様、ボランティアスタッフを募集して取り組む。	参加者 ボランティア	

<金額の単位:千円>		16予算額	16決算額	17予算額	
事業費	特定国庫支出金				
	特定県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	100	100	90	
事業費計 (A)		100	100	90	
人件費	正規職員所要時間	3	3	5	特定財源内訳
	臨時職員等所要時間				
	人件費計 (B)	11	11	18	
トータルコスト A+B		111	111	108	

(3)この事業目的の達成は、次の上位(政策や基本事業)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 (この事務事業の上位目的)	上位成果指標 (例: 施策の成果指標)と単位	上位成果指標の数値		
	ひまわりを題材とした大自然のステージで、子どもと大人がそれぞれの関わりあいや体験を通して、互いが教え合い、育みあい、子供達がこの地域に住む誇り、愛着の心を醸成する。		16目標	16実績	
			17目標		
			16目標	16実績	
		17目標			

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
青少年のおかれる地域環境が大きく変わる中、青少年育成に関わる地域の役割がより重要視されるようになった。住んでいる地域に誇りを持ち、何事も愛する心を持つ青少年の育成を目指し「ひまわり大作戦」として実施。	阪神淡路大震災時、自宅で亡くなった小学6年生。その年の夏、その女の子の自宅跡に大きな「ひまわり」の花が咲いた。地域の人達はそのひまわりを「はるかちゃんひまわり」と呼んで毎年咲かせ続けている。NPO法人関係者によりその種5000粒が飯田に届き、この事業の中で他の種と併せて10000本のひまわり畑となった。 ひまわりを通して、神戸の想いと一緒に「育む」中から「いのち」についても考えてもらえるようにとの想いも、この事業の中に盛り込まれている。	この事業を通して、自然の中で大人や子どもが一緒になって過ごす時間は、共に切磋琢磨しながら感動を共有でき、大人が子どもに何か教えるのではなく、互いが様々な体験の中で教え合い育みあう「共有」の実践となる。

【 See (16年度の事業評価) 】

目的 妥当性 評価	意図の達成が、結果に結びつくか	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果(達成度)を向上させる余地はあるか?	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性は?	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響は?	(評価) 影響なし (その理由)
	意図の見直しの必要性は?	(評価) 必要性がない (その理由)		類似事業の有無と統合の可能性(市以外の取組も含む)	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性は?	(評価) 必要ある (その理由)		効率性 評価	成果を下げずに、事業費・人件費の削減は?
			公平性 評価	受益者は誰か?負担の是非、程度は妥当か?	(評価) 妥当である (その理由)

【 Plan(改革改善案) 】

今後の事業の方向性	事業の方向性の具体化 (何を、いつまでにどうするか改革改善案)	改革改善案実施の課題と克服方法
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	活動主体の自主活動に切り替え、5年間の支援後打ち切り。子供の森公園の自主事業への収斂など同様に考えていく。	社会情勢の変化も踏まえ、大人と子どもが共に経験を共有できる事業として考えられる内容の検討が必要。広く情報を求め、関係機関等にも諮っていく。